

生活科の内容構成の視点はどのように変わるのか

1 内容構成の基本的な視点

- 自分と人や社会とのかかわり
- 自分と自然とのかかわり
- 自分自身

基本的な視点は、具体的な活動や体験を通して学ぶとともに、自分と対象のかかわりを重視する生活科の内容の基本構造を原理的説明したものであり、生活科の基本的な性格を反映したものである。

2 内容構成の具体的視点

内容構成の具体的視点については、現行の10の視点が一つ増えて11の視点となっている。新たに増えた視点は、ウの「地域への愛着」である。これは、地域で働く人など地域で生活する様々な人や場所などに慣れ親しみ、それらに心がひかれ、離れがたく感じる気持ちを大切にすることができるようにするという視点から加えられたものである。

「ア 健康で安全な生活」では、近年の低学年児童の事件や事故を受けて、登下校など通学路の安全についても十分配慮した行動ができるように求められている。

「オ 生産と消費」では、これまでの「消費」という視点に「生産」という視点が加えられている。これは、接続可能な社会が求められる中、使うだけでなく、自ら作る、作って使う、繰り返し使うという視点が必要とされているということである。

「カ 情報と交流」では、情報化社会が一層進展する中、多様な情報手段によって伝え合うことが求められるとともに、他者とのかかわりや交流などのコミュニケーションを深めることができるようにする。

「キ 身近な自然との触れ合い」では、生命を尊重する意識の低下が指摘される中、これまでと同様に自然の観察や動植物の飼育・栽培などを大切にするとともに、それらを通して生命を大切にすることができるようにする。

ア 健康で安全な生活

健康や安全に気を付けて、友達と遊んだり、学校に通ったり、規則正しく生活したりすることができるようにする。

イ 身近な人々との接し方

家族や友達や先生をはじめ、地域の様々な人々と適切に接することができるようにする。

ウ 地域への愛着

地域の人々や場所に親しみや愛着をもつことができるようにする。

エ 公共の意識とマナー

みんなで使う物や場所、施設を大切に正しく利用できるようにする。

オ 生産と消費

身近にある物を利用して作ったり、繰り返し大切に使ったりすることができるようにする。

カ 情報と交流

様々な手段を適切に使って直接的間接的に情報を伝え合いながら、身近な人々とかかわったり交流したりすることができるようにする。

キ 身近な自然との触れ合い

身近な自然を観察したり、生き物を飼ったり、育てたりするなどして、自然と触れ合いを深め、生命を大切にすることができるようにする。

ク 時間と季節

一日の生活時間や季節の移り変わりを生かして、生活を工夫したり楽しくしたりすることができるようにする。

ケ 遊びの工夫

遊びに使う物を作ったり遊び方を工夫したりしながら、楽しく過ごすことができるようにする。

コ 成長への喜び

自分でできるようになったことや生活での自分の役割が増えたことなどを喜び、自分の成長を支えてくれた人々に感謝の気持ちをもつことができるようにする。

サ 基本的な生活習慣や生活技能

日常生活に必要な習慣や技能を身に付けることができるようにする。

*波線を付した部分は、変更もしくは新たに加えられた文言である。